

C . サンサーンス讀

紫のワインに淋しいロマンはうずくまる
小さな胎児が星のように沈んでいる
灯火の光は紫の酒を透かして物思いに沈む

貴方にあるものはエスプリなんぞではない
あるのは夕暮れの港のポラードに腰掛ける憂い
天才に既製の何を与えようと無駄なこと

私のような尻青き若造では不足でしょうか
この漸進と迂遠を人々はあざ笑います
悲壮な行進に価するものでしょうか

(1982.5.14)